

## 特別支援学級における放送番組を活用した社会的スキルの育成

神奈川県横浜市立常盤台小学校 教諭 東森 清仁

### 特別支援学級 生活単元学習 で～きた

#### 番組の特徴

児童に必要な集団行動・マナー・社会的スキルをよりわかりやすく、自発的に学ぶ番組である。何が「できていない」のかを、子どもが自分で気づき、なぜできないと困るのかを理解することで「できるようになる」ことを目指している。

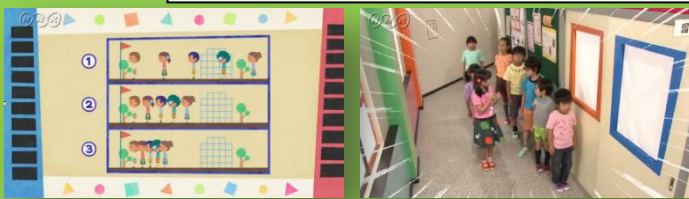
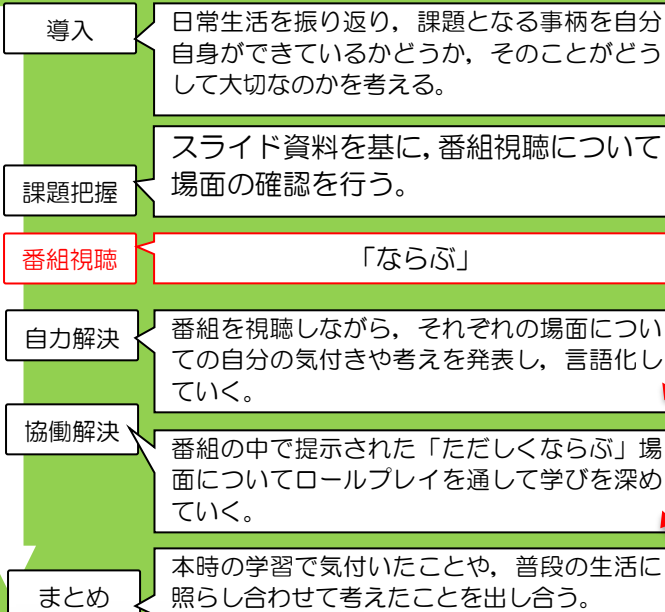
#### 研究の概要

特別支援学級25名の児童を対象に、学校放送番組を活用して社会的スキル（生活習慣・コミュニケーション）の育成に取り組んだ。

放送番組を活用することで、児童が本時の課題をつかみ、より主体的に活動に参加する姿を見ることができた。また、客観的に視聴したものをロールプレイとして自分の活動に投影することでそのよさを感じることができ、日常生活での活用へとつながった。

#### 授業デザイン（1単位授業時間）

単元：まっすぐな列にきちんと並ぼう  
目標：どうして「ならぶ」ことが大切なのか考え、自分の生活に生かそうとする意欲をもつ。



#### 番組や関連動画クリップの活用意図

##### 課題を持つための番組視聴

「で～きた」では、ねらいとする課題の価値について児童が自発的に考える場面が意図的に設定されている点が特徴である。今回の番組活用では、同じ主題でも少しずつ視点を変えながら思考を深めていくことをねらいとした。

「自分が生活の中でちゃんと並べているか」「どうして並ぶことが大切か」「並んでいないことでどんなことが起きるのか」と順を追って視聴することで、ねらいとする価値を具体的に考えることができた。

##### ロールプレイで感覚を養うための番組活用

今回の放送回では番組最後の「どうする？こうする！お手本アニメ」を活用して実際に並ぶ場面をロールプレイで行った。体を動かすことで児童も上手な並び方や、その感覚を体験することができた。

#### 思考の可視化にかかわる教師の工夫

##### ホワイトボードの活用

本時の学習の流れをホワイトボードに示し、見通しをもって活動に取り組めるように支援するとともに、児童からの発言も項目ごとに板書し、言語として共有化していく。

##### ロールプレイによる可視化

今回の学習では、「ならぶ」ことをロールプレイすることで、自分のイメージを体感させることができた。ロールプレイを見る側の児童には、並び方の違いを視覚的に理解できるように場の設定を行った。

#### 生き生きと学ぶ子どもの姿

##### 子どもの自己評価（活動中での言語化の場面から）

- きちんと並んでいないと、思った場所に行けなかったり、迷子になったりして自分が困ってしまうことが分かった。
- 並ぶことができないと、相手に迷惑をかけることが分かった。自分もときどき順番を守れていないので気を付ける。
- きちんと並んでいると、集会や朝会の時にきれいなので、気持ちがいいと思った。

##### 同僚の評価

- 日常生活の中で、「ならぶ」ことについての指導を継続的に行っているが、視覚的な資料を基にその必要性について考えさせることで児童がより具体的に生活の中での課題を言語化することができた。

#### 実践を終えて

番組の内容に応じてスライドを事前に作成し、視聴のポイントを意識させたり、授業の流れを定型化したりすることで児童が見通しをもって学習に取り組むことができた。

視聴した内容をロールプレイとして自分の活動に投影することで、課題について明確に考えることができたり、よりよい生活習慣を意識する姿が見られたりするようになった。日常生活に学習内容を確実に定着させていくためには、今後の計画的・継続的な取組が必要と考える。